

問6 長文読解

〈本文の日本語訳〉

みなさん、こんにちは。夏がきました。暑いときには、私たちはのどが渇きます。あなたは何を飲みますか。私は冷たいお茶を飲みます。特に私は麦茶が好きです。私は1年中家で麦茶を作り、夏にはそれを持って学校に来ます。私は両親と祖母と一緒に住んでいますが、彼らもお茶が好きです。私の母のお気に入りのお茶は麦茶で、父と祖母は緑茶が一番好きです。

今日、世界中の人々がお茶を飲み、日本の緑茶が好きな人々もいます。多くの人々が、日本食は健康によいと考えているので、日本食は他の国々で人気があるそうです。彼らは日本の緑茶も飲みます。日本はたくさんの茶葉を輸出していることを知っていますか。グラフと地図を見てください。2017年には、日本の茶葉の輸出量の約30%がアメリカに輸出されたことがわかります。私はこんなに多くの茶葉が輸出されていることを知りませんでした。

日本のお茶の歴史について知っていますか。興味深いので、皆さんにお話しようと思います。お茶の木は中国が原産地です。中国の人々は大昔に、茶葉をつみ、お茶をいれるようになりました。お茶は中国から日本に伝えられました。いつそれは伝えられたのでしょうか。平安時代に2人の有名な僧侶である最澄と空海が中国へ行き、お茶の種を持ち帰ったのです。(①私は、彼らが初めて日本にお茶の種を持ち込んだと聞いています。)しかしその当時、限られた数人の僧侶と貴族だけがお茶を飲むことができました。

どのようにして日本でお茶が広まったのでしょうか。12世紀の終わりには、禪の僧侶である栄西が禪を勉強するために中国に行きました。彼は中国にいたとき、禪寺で、ある人々を見ました。彼らはお茶を飲んでいました。(②彼はお茶が人々の健康によいということを知り、お茶の種を持ち帰りました。)鎌倉時代に、たくさんの武士たちが、禪の修行をするために栄西の寺を訪れました。栄西はたくさんの武士にお茶を紹介し、彼らはお茶を飲みました。また、栄西はお茶の種を京都にいるある僧侶に渡し、その僧侶は自分の寺で、お茶の木を栽培し始めました。(③その後、お茶の木はまた別の禪寺でも栽培されるようになりました。)そして多くの僧侶や武士たちがお茶を飲みました。安土桃山時代には茶道が確立され、そして江戸時代には多くの人々がお茶を飲めるようになったのです。

今日ではお茶は私たちにとって非常に身近なものです。私たちはたくさんの種類のお茶を飲むことを楽しむことができます。私はいろいろな種類のお茶を飲んでみたいです。本日はご清聴ありがとうございました。